

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

〈小学校第6学年 市内16校 878人〉 〈中学校第3学年 市内8校 819人〉

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
 - ・小学校【国語・算数・理科】 中学校【国語・数学・理科】
- ②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(4) 実施日 令和4年4月19日（火）

【今年度調査の特徴】

※今年度の教科に関する調査は、国語、算数、数学に加えて理科を4年ぶりに実施
 ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で実施できるよう、新型コロナウイルス感染症や、非常変災等による後日実施を設定。後日実施の期間については、4月20日（水）から5月20日（金）までの約1か月間で実施
 ※平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題に変更

学力調査結果

平均正答率(%)

小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	63	64	65.6
算数	63	63	63.2
理科	61	60	63.3

中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	69	67	69.0
数学	53	51	51.4
理科	47	47	49.3

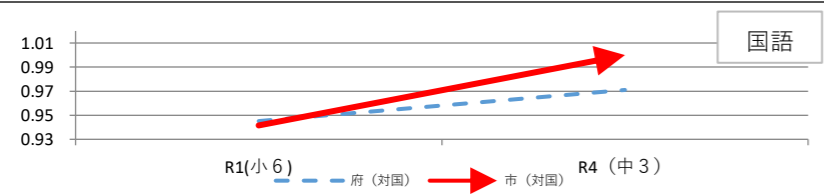
無解答率(%)

小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	5.1	5.9	5.7
算数	2.2	3.6	3.5
理科	3.1	4.2	3.6

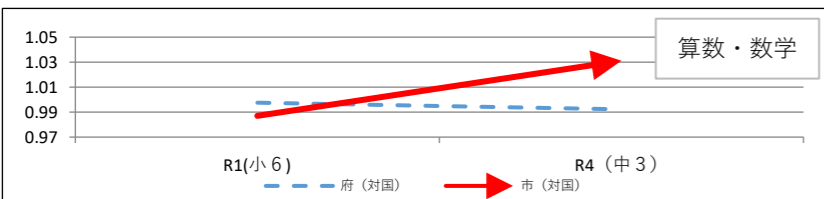
中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	4.5	5.3	4.3
数学	9.4	12.1	10.8
理科	3.5	4.5	3.4

小6から中3にかけて

下のグラフは、本年度の中学校3年生について、令和元年度に小学校6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果と、本年度の調査結果を比較し、富田林市の平均正答率と全国公立の平均正答率との差がどのように変化したかを表したものです。



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●R1	60	60	63.8
◆R4	69	67	69



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●R1	66	66	66.6
◆R4	53	51	51.4

各教科の状況

※（ ）内の数値は全国平均

	領域	富田林市	平均正答率(%)
小学校 国語	話すこと・聞くこと	65.1	(66.2)
	書くこと	44.0	(48.5)
	読むこと	65.4	(66.6)
	言語の特徴・使い方	66.2	(69.0)
小学校 算数	数と計算	70.1	(69.8)
	図形	62.3	(64.0)
	変化と関係	52.9	(51.3)
	データの活用	68.4	(68.7)
小学校 理科	エネルギー	50.2	(51.6)
	粒子	55.7	(60.4)
	生命	72.2	(75.0)
	地球	63.3	(64.6)
中学校 国語	話すこと・聞くこと	62.5	(63.9)
	書くこと	45.0	(46.5)
	読むこと	67.7	(67.9)
	言語の特徴・使い方	72.6	(72.2)
中学校 数学	数と式	60.8	(57.4)
	図形	43.6	(43.6)
	関数	45.0	(43.6)
	データの活用	57.2	(57.1)
中学校 理科	エネルギー	39.1	(41.9)
	粒子	49.1	(50.9)
	生命	55.3	(57.9)
	地球	43.1	(44.3)

通過率：全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における本市の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したものを。 ※みんなができて問題をどれだけできているのかが通過率です。

○・・・全国平均を顕著に上回った内容 △・・・全国平均を顕著に下回った内容 ※〔 〕内は問題番号

小学校国語・・・読むことの全国平均との差が改善。【通過率100%達成】

○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。〔2-（1）〕
 △文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。〔3-〕
 →読み手に自分の考えを明確に伝えるには、自分で考えた文章を読み返し、内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているかを推敲する活動が重要である。

小学校算数・・・数と計算、変化と関係は全国を上回る。【通過率100%達成】

○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。〔2（2）〕
 △示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。〔4（1）〕
 →コンピューターを用いて図形を作成する際であっても、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解したり、図形の構成の仕方について考察し、表現したりすることが重要である。

小学校理科・・・地球に関する領域が全国平均に迫る。【通過率100%達成】

○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ。〔4（2）〕
 △鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く。〔4（4）〕
 →水は空気中で目に見えない状態の水蒸気となって存在していることについて、科学的な言葉や概念を理解している必要があるとともに、理解している内容を説明する活動が重要である。

中学校国語・・・言語の特徴・使い方は全国を上回る。【通過率100%達成】

○文章表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。〔3-〕
 △話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する。〔1二〕
 →スピーチ活動などの言語活動を行う際の聞き手は、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりすることが重要である。

中学校数学・・・全ての領域で全国と同様、または上回る。【通過率100%達成】

○自然数を素数の積で表すことができる。〔1〕
 △箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。〔7（2）〕
 →日常生活や社会の現象を考察する場面では、データやグラフなどを適切に読みとり、データの傾向を捉え、批判的に考察することが大切であり、その際、判断の理由を数学的に説明する活動が重要である。

中学校理科・・・地球に関する領域が全国平均に迫る。【通過率100%達成】

○水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する。〔3（2）〕
 △アリが視覚による情報に基づいて行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、考察を記述する。〔8（1）〕
 →理科では、観察、実験の結果を分析して解釈し、それらを根拠として、課題に正対した考察をおこなう必要があるため、予想や仮説と異なる結果が出た場合について考える活動が重要である。